

新型コロナウイルス感染症対策の全体像

国会周辺の木々も色づき季節の移り変わりを感じさせます。シーズン終了間近なプロ野球は、セ・パを制したヤクルトとオリックスの両チームが、11月20日からの日本一を賭けた戦いに臨みます。米国大リーグでは一足早く、ブレーブスがワールドシリーズを制してシーズンを終えました。エンゼルスの大谷翔平選手は、投打の二刀流での活躍が評価され、アメリカンリーグのMVPを獲得する快挙を遂げました。新型コロナウイルス感染症の影響により開催が危ぶまれた各種スポーツイベントでしたが、東京オリンピック・パラリンピックをはじめ、甲子園の高校野球大会や長期のプロスポーツ大会など、入場者数の制限等の感染症対策を徹底することにより無事に終えるところとなりました。来シーズンは大勢の観客のもとで、素晴らしいプレーが見られるのを期待したいと思います。

さて、岸田新内閣の発足直後に行われた衆議院選挙は、10月31日に投票が行われました。新型コロナウイルス感染症により人々の生活や経済に大きな影響を与えた中での選挙となり、野党が候補者を統一したこともあって、自民党にとって厳しい戦いも予想されていましたが、結果的には単独で絶対安定多数を確保し、安定した政権運営を引き続き担えることとなりました。ご支援頂いた皆様方に改めて厚く御礼申し上げます。

総選挙後の自民党役員人事において、党の参議院政策審議会長を命じられました。政策審議会長は、参議院自民党内では議員会長、幹事長に次ぐポストであり、政策決定の責任者であります。参議院自民党としての独自の政策研究に取り組むとともに、自民党政務調査会とも十分に連携をとり、新型コロナウイルス感染の再拡大防止や経済の再活性化等の直面する課題に対応するとともに、活力ある新しい時代を築くために全力で取り組んで参りたいと思います。

新型コロナウイルス感染症は、このところ収まりを見せていますが、次の波に備えた対策を整えておく必要があります。こうした観点から政府は12日、ワクチン、検査、治療薬等の普及による予防、発見から早期治療までの流れをさらに強化するとともに、最悪の事態を想定して、次の感染拡大に備えることを基本的考え方とした「次の感染拡大に向けた安心確保のための取組の全体像」を取りまとめました。

全体像には、医療提供について、今夏のピーク時に比べて約3割増の約3万7千人が入院できる体制を11月末までに構築し、あわせて、臨時の医療施設・入院待機施設を確保することにより、4倍弱の約3万4千人が入所できる体制を構築すること。ワクチン接種について、追加接種を12月から開始できる体制を整備すること。国産経口薬を含む治療薬の開発費用として、1薬剤当たり

最大20億円を支援し、経口薬の年内実用化を目指すこと等が示されています。

政府は、この感染症対策の全体像を踏まえた新たな経済対策をとりまとめ、それに必要な財源を手当する本年度補正予算（案）を臨時国会に提出するとしています。補正予算の年内成立に向けて審議を尽くして参りたいと思います。